

のう じ でん そう 農時電送

号外-NO. 6

台風第25号に備えて！

台風25号は、10月8日頃に檜山地方を通過・接近し、大荒れの天気となる予報です。十分な対策をして被害軽減に努めましょう。

第1 大雨対策

- 1 ビニールハウス・農舎・畜舎・サイロ・飼料庫等は、屋根や壁の点検・補修を行い、風雨による被害を防止する。施設周辺に排水溝を掘り、土のうを積むなどにより施設への浸水を防ぐ。
- 2 浸水の被害が想定される貯蔵施設は、収穫物を浸水の危険がない場所に移動する。
- 3 堆肥場や尿溜に入った雨水が流出する恐れがある場合は、土盛りし、河川等への流出を防ぐ。

第2 ビニールハウス等農業施設・農作業機械の暴風雨対策

- 1 ハウスバンドを固定するアンカー杭が浮き上がっていないか確かめ、修正しておく。応急的に暴風網の設置も行う。
- 2 ハウスの筋かいは、緩んでいるところだけを締め付けると周囲の筋かいは緩むので、ハウス全体の筋かいは均等に締め付けられるように調整する。
- 3 ハウスの出入り口、天窗、側窓、換気扇および側面のフィルム巻き上げ部などの開口部が、きちんと閉まるかチェックしておく。
- 4 ビニールフィルムが強く緊張するように、ハウスバンドをきつく閉めておく。強風でフィルムがバタつくともフィルムが破れやすくなるので、防風ネット等を張りバタつきをおさえる。
- 5 被覆資材が破れ、風がハウス内に吹き込むとハウス内の圧力が非常に大きくなり、ハウス全体が大きな被害を受ける。飛来物によるハウスの破損がないよう、ハウス周辺の飛散しやすいものを片付けておく。
- 6 ビニールハウス周辺の排水溝は、ハウスのすき床面より低く掘り下げ、ボイラーや移動できる機械類は可能な限り高所に移す。
- 7 コンバインなどの作業機械が屋外においてある場合は、雨よけカバーなどが緩んでいないか確認する。また、場所により強風で飛来物が予想される場合は、倉庫等へ格納する。

第3 畜舎等施設の暴風雨対策

- 1 畜舎で保管中の生石灰が浸水で発熱し、火災にならないよう注意する。
- 2 草地ほ場等のロールベールやラップサイレージは、高く安定した所へ移動する。
- 3 氾濫する恐れのある河川周辺に放牧している牛は、目の届く放牧地や避難施設などの安全な所に誘導する。

第4 停電・断水対策

- 1 常備している懐中電灯の電池残量や、畜舎・施設などの小道具の置き場所を全員が確認する。また、畜舎内の清掃・整頓を徹底し、夜間停電での突発的な人身事故に備える。特に、畜舎では発電機の手配、自家発電機の試運転、発電能力と使用する施設・機械の必要電力の確認、給水タンクの手配をしておく。
- 2 酪農施設で停電した場合
 - (1) 停電で搾乳が不可能な場合、牛舎への出入りは必要最小限にし、牛に搾乳刺激を与えない。また、給水制限すると同時に濃厚飼料の給与は控える。
 - (2) 通電後、直ちに搾乳する。ただし、前搾りを行い凝固物（通称ブツ）の有無を確認し、罹患している場合は治療する。
 - (3) 牛の体調を確認して、異常牛はすみやかに獣医師の診察を受ける。
 - (4) ミルカーなど電気を動力源とする機械は、通電後正常に作動するか速やかに点検する。
 - (5) 停電中にバルククーラーで冷却中であつた生乳は、速やかに集乳できるように体制を整える。なお、出荷の際には、細菌数検査を実施する。

第5 作物の暴雨風による病害対策

暴風雨で茎葉がもまれ、傷ついた部分からの腐れや降雨・過湿により病害が増える場合がある。収穫までに日数がある場合は、薬剤散布を検討する。散布の際は、収穫前日数及び使用回数を守る。

夕暮れの時間が早くなり、稲刈りなどで大型機械（コンバイン、トラックなど）を多く使用する時期となっています。家族・従業員同士で声を掛け合い、農作業事故が起きないように注意しましょう！